

1. 古代ギリシャ

1.1 文明の移り変わり

前 3000 年頃にはエーゲ海を中心にオリエント文明の影響を受けた青銅器文明が発達し、これをエーゲ文明とよぶ。エーゲ文明は前期のクレタ文明と後期のミケーネ文明からなる。

時代	文明	文明の詳細
前 2000 年～前 1400 年頃	クレタ文明	クレタ島のクノッソスを中心に栄えた開放的な海洋文明。前 1400 年頃アカイア人(ギリシャ人)によって滅ぼされた。
前 1400 年～前 1200 年頃	ミケーネ文明	ギリシャ本土のミケーネ・ティリンスで栄えた。前 12 世紀頃、鉄器を持つドーリア人によって滅ぼされた。

1.2 ポリスの成立

◇土地

平野に乏しく山が多く、島が多い。面積は九州の 1.5 倍。

◇気候

夏は小雨で乾燥し、冬は温暖で雨が多い。典型的な地中海性気候。

◇農業

穀物農業よりも、オリーブ、ぶどうなどの果樹栽培が適している。

◇ポリス成立から衰退までの流れ



時代	出来事
前 20 世紀頃	ギリシャ人はインド=ヨーロッパ語族に属し、もともと中央アジア、南ロシアに住んでいたが徐々にギリシャ半島に南下し、定住していった。
前 14 世紀頃	アカイア人等の影響でクレタ文明が滅びる。
前 12 世紀頃	ドーリア人が鉄器を持って南下し、ミケーネ文明が滅びる。
前 8 世紀頃	政治や軍事の実権を握った貴族のもとで 1000 以上の都市国家(ポリス)が成立する。※1
前 6 世紀半ば	アケメネス朝ペルシアのダレイオス 1 世(古代文明、オリエントの統一参照)がギリシャ植民地を圧迫し、アテネがこれを援助した。(ペルシア戦争の発端)
前 6 世紀末	アテネでは貴族制から民主制へと徐々に移行し始める。
前 490 年	マラトンの戦い(古代文明、オリエントの統一参照)でアテネはペルシア軍を撃退した。

前 478 年	各ポリスはペルシアの再攻に備え、アテネを盟主に軍事同盟を結成した。本部がデロス島に置かれたことから デロス同盟 といわれる。
前 5 世紀半ば	ペリクレス の指導のもとでアテネの民主政治※2 が完成した。
前 5 世紀	デロス同盟を結成したアテネの横暴に反感をもつスパルタなどのポリスが ペロポネソス同盟 を結成した。
前 431 年	デロス同盟とペロポネソス同盟の間に戦争が起こる。(ペロポネソス戦争の発端)※3
前 4 世紀半ば	覇権を握ったスパルタが中部ギリシャのテーベに敗れポリスは弱体し、マケドニアの時代に移っていく。

1.3 ヘレニズム世界

◇マケドニアの発展

時代	出来事
前 4 世紀頃	ギリシャ北方にマケドニアが興隆した。※4
前 338 年	フィリップ 2 世 がアテネ・テーベの連合軍を カイロネイアの戦い で破り、ギリシャの覇権を握る。
	フィリップ 2 世の死後、 アレクサンドロス王 がマケドニア王に即位。
前 334 年～ 前 330 年	マケドニア・ギリシャの兵を率いて東方遠征出発し、ダレイオス 3 世の軍を破り、アケメネス朝ペルシアを滅ぼした。※5
前 330 年～ 前 1 世紀後半まで	アレクサンドロス大王死後、広大な支配領域はマケドニア、シリア、エジプトに分裂し、これらのヘレニズム諸国家は、前 1 世紀後半までに、いずれも西方におこったローマによって滅ぼされた。※6

- ※1 代表的なポリスが、イオリア人がたてた**アテネ**とドーリア人がたてた**スパルタ**である。
- ※2 ギリシャの民主制は奴隷制を基盤とし、成年男子をもとにした直接民主制であった。
- ※3 アテネは一時優位に立ったが、疫病が広がるなかでペリクレスも死亡し、結局戦争はアテネの敗北に終わる。デロス同盟は解散しギリシャの覇権はスパルタに移った。
- ※4 マケドニア人はドーリア人の一派である。
- ※5 アレクサンドロス大王は東征の途上、エジプトも征服し、ナイル川河口に、その名にちなんでアレクサンドリア市を建設した。
- ※6 アレクサンドロス大王の東方遠征からローマのエジプト支配までの約 300 年間を**ヘレニズム時代**とよぶ。



←アテネ中心地のアクロポリスの丘

→マケドニアの場所



2. 古代ローマ

2.0 ローマの政治体制の変化

王政ローマ→(前 6 世紀)共和制ローマ→(前 27 年)帝政ローマ

2.1 共和制ローマの誕生

◇歴史

時代	出来後
前 1000 年頃	古代イタリア人がイタリア半島に南下・定住する
前 8 世紀頃	都市国家ローマが成立し、王政がスタート。
前 509 年	王の暴政が増加し、王政から貴族共和制へと移る。

2.2 共和制の政治体制

◇共和制初期

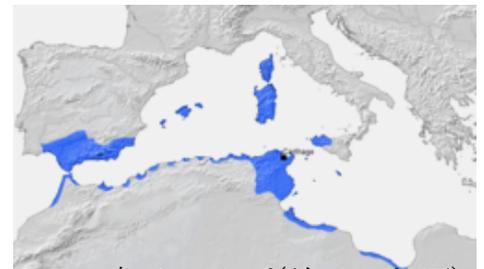
貴族(パトリキ)と平民(プレブス)の二つの身分に別れ、貴族が官職を独占していた。最高官である 2 名の **コンスル(執政官)** は両名とも貴族で、最高立法機関であった元老院もすべて貴族で構成されていた。

◇平民の参政権獲得までの過程

時代	出来事
前 494(493)年	平民のみの集会である 平民会 を設置し、対貴族抗争の拠点とした。また平民会から選出する 護民官 を設置し、元老院に対して拒否権をもった。
前 450 年	ローマ初の成文法である 十二表法 が制定される。
前 367 年	リキニウス・セクスティウス法 にて、コンスル(執政官)の一人を平民から選出し、貴族の大土地所有を制限した。
前 287 年	ホルテンシウス法 により平民会の決議は元老院の承認を受けずとも法的効力をもつ。これにより、平民と貴族の法的平等が完成された。

2.3 ローマの地中海支配(前 272 年~)

ローマは前 272 年にイタリア半島を制圧した。その後、前 264 年カルタゴ※1 と戦う事になった。これが **ポエニ戦争** である。※2 この戦争に勝利したローマは、マケドニア・ギリシャ・小アジアにも進出し、ローマの属州にした。



青:カルタゴ(前 264 年頃)

2.4 ローマ社会の変貌

ローマの領土が拡大するとともに、富裕層(主に元老院)は多くの土地を獲得し、捕虜を奴隷として労働させる **土地所有制(ラティフンディア)** を発展させ、階級が分解していった。

閥族(ばつぞく)	騎士身分	無産市民
広大な奴隷制農場を経営。	公共土木事業や属州の徴税請負で財力確保。	土地を失ったもの。

◇グラックス兄弟の改革(前 133 年頃)

土地所有制のために貧富の格差が拡大した状態を是正しようと**グラックス兄弟**による改革が行われた。※3 しかし、元老院の反対のもと暗殺された。これ以降、平民派と閥族派の対立が続き、ローマは内乱状態(**内乱の 1 世紀**)におちいった。

◇三頭政治

平民派と閥族派の対立が続くなか、3 人による政治が行われた。

閥族派	平民派	富豪
ポンペイウス	ユリウス・カエサル	クラッスス

第一回三頭政治(前 60~前 53 年)

とくに、カエサルは属州の改革等を強力に推進した。※4 しかし、独裁権力を確立後、元老院に暗殺された。その後、第二回三頭政治にて**アクティウムの海戦**(前 31 年)※5 でオクタヴィアヌスがアントニウスを破り勝利、皇帝独裁政治の段階へと移行する。

オクタヴィアヌス	アントニウス	レピドゥス
----------	--------	-------

第二回三頭政治(前 43 年~前 36 年)

2.5 ローマ帝国の繁栄と滅亡

◇**元首制**※6 がスタート(前 27 年)

オクタヴィアヌスは元老院から**アウグストゥス(尊厳者)**の称号を付与され、帝政ローマの初代皇帝となり、元首制が始まった。

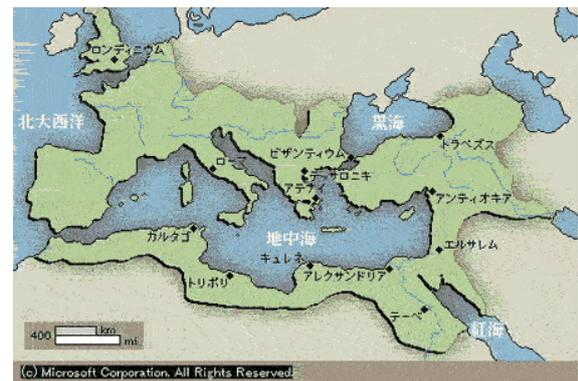
◇**五賢帝の時代**(96~180 年)※7

オクタヴィアヌスがアウグストゥス就任から五賢帝時代末期まで平和が続いた時代を**ローマの平和**といい、**トラヤヌス帝**の時、ローマ帝国領土は最大となった。

◇**軍人帝国時代**(235 年~284 年)

ゲルマン民族や、ササン朝ペルシアからの外圧の高まりとともに、軍隊の特権が強化され、皇帝の廃立を行うなど政治は混乱していった。

◇**皇帝の政策**(284 年~395 年)



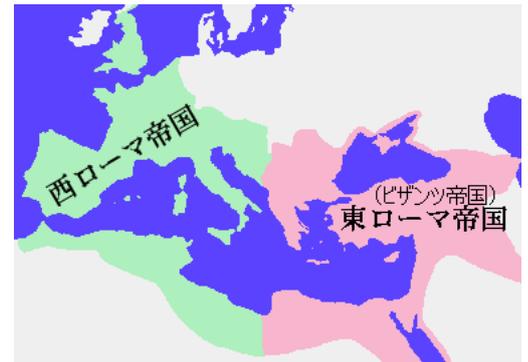
ローマ帝国の最大領土

皇帝(在位期間)	政治的出来事	キリスト教(p.6 参照)との関係
ディオクレティアヌス帝 (298~305 年)	軍人帝国時代の混乱をおさめ、 専制君主制(ドミナートゥス) を開始。	キリスト教徒大迫害(303 年)
コンスタンティアヌス帝 (306~337 年頃)	首都を ビザンティウム(コンスタンティノーブル) に遷移(330 年)	ミラノ勅令 (313)年にてキリスト教を公認する。

テオドシウス帝 (379年～395年)	二人の子にローマ帝国を東西に分 け与えた。(ローマ帝国の分裂)	<u>キリスト教を国教化(392年)</u>
-------------------------------	------------------------------------	------------------------

◇ローマ帝国の分裂と西ローマ帝国の滅亡※8

テオドシウス帝の時に分裂したローマ帝国だったが、東ローマ※9は専制君主制の伝統があり、ビサンティン帝国に受け継がれるが、西ローマは国家をまとめる原理がほとんど存在しなかったため、ゲルマン民族の侵入を許し 476年にゲルマン人傭兵隊長オドアケルによって滅亡した。



-
- ※1 カルタゴはフェニキア人の都市国家で、前6世紀までに地中海の交易を支配していた有力な商業国家である。
 - ※2 ローマ人がフェニキア人をポエニと呼んでいたことに由来する。
 - ※3 農地を無産市民に再分配しようとした。
 - ※4 クラッススがパルティアの戦いで戦死して三頭政治が崩壊すると、カエサルとポンペイウスの対立が始まった。ポンペイウスはエジプトに亡命するが、プトレマイオスに殺された。当時エジプトはクレオパトラとプトレマイオスが統治していたが二人は仲が悪かった。プトレマイオスがクレオパトラを追放すると、彼女はカエサルと組んでプトレマイオスを倒した。
 - ※5 レピドゥスが失脚後、オクタヴィアヌスはプトレマイオス朝エジプトのクレオパトラと結んだアントニウスを破った。
 - ※6 元老院など、共和制の伝統を名目上尊重する一方で実権を掌握する、実質上の帝政(独裁政治)。
 - ※7 レルヴァ、トラヤヌス、ハドリアヌス、アントニヌス・ピウス、マルクス・アウレニウス・アントニヌス帝。
 - ※8 一般に西ローマ帝国が滅亡したときまでの時代を古代と呼んでいる。
 - ※9 東ローマは7世紀に入ると公用語がラテン語からギリシャ語になった。

3. イエス・キリスト

3.1 イエスの思想

イエスは 29 年頃からユダヤ教※1 の形式主義(律法主義・選民思想)を批判し、「平等・隣人愛・神の救い」などを説く活動を開始した。

3.2 イエスの生涯とその影響

ユダヤ教の反発(特にパリサイ派)にあい、ローマ帝国への反逆者として死刑された。彼の死後、イエスの「四福音書」や「使徒行伝」などからなる「新約聖書」が編纂された。

3.3 中世ヨーロッパにおけるキリスト教の宗派(中世ヨーロッパ p.1、p3 の※2 参照)

◇宗派

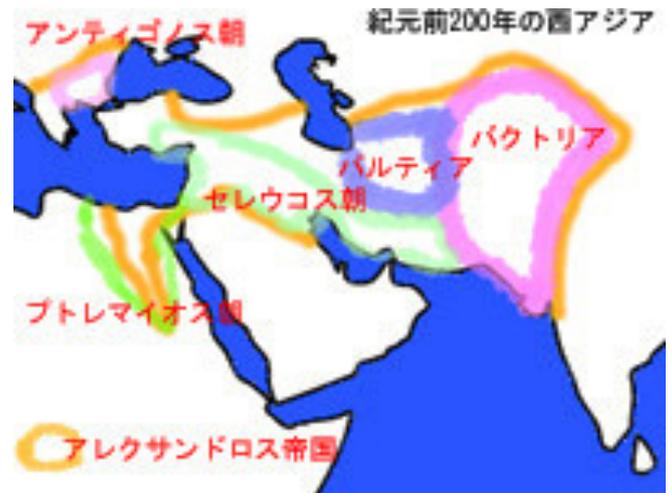
宗派	内容	信仰者
アリウス派	イエスを神の創造物ととらえる。	ゲルマン人
アタナシウス派	神・イエス・精霊を 1 つのものと信じる「三位一体」説をとる。	クローヴィス

※1 ユダヤ教の経典は「旧約聖書」である。

3. イラン文明の展開

3.1 パルティア(前 330 年~226 年)

アレクサンドロス大王死後(p.2)アジアの領土(イラン高原)はセレウコス朝の支配下に置かれた。イランの遊牧民の族長アルサケスは、セレウコス朝から独立しパルティアを建国した。ミトラダテス 1 世の時代が、パルティアの最盛期である。パルティアは国土を東西へ拡大し、シルクロードの要地として中継貿易で繁栄したが、ローマとの長い抗争によって衰え、226 年ササン朝ペルシアによって滅ぼされた。



3.2 ササン朝ペルシア(226 年~642 年)

226 年 イラン人のアルダシール 1 世がパルティアを滅ぼした。

642 年 ニハーヴァンドの戦いでイスラム軍に敗れ滅亡した。